大阪教育大学附属特別支援学校
2018年(平成30年度)
「校長だより集(NO1～NO12)」



■編集・発行：大阪教育大学附属特別支援学校　校長　須田　正信

■発行年月日：2019年(令和元年)6月3日

■保護者向け　「校長だより：NO1～NO12」

はじめに

平成 30 年４月１日付で国立大学法人大阪教育大学附属特別支援学校第 17 代目校長に赴任しました須田正信でございます。この度、大阪教育大学教育学部特別支援教育講座特任教授との併任を拝命しました。難しいミッションですが大学の研究と学校現場との両立を果たすべく努力する所存です。

私は、平成 30 年３月 31 日まで学校法人薫英学院大阪人間科学大学健康心理学科特任教授として特別支援教育を目指す学生の育成を図ってまいりました。また、大阪教育大学には非常勤講師として府立支援学校在籍中ながら平成１９年度から特別支援教育に関連する講義科目(肢体不自由教育総論・重複障害教育論・情緒障害教育論)を担ってきました。このような中で、大阪府の支援学校の校長経験を踏まえ、国における今後のインクルーシブ教育システムの構築における「ともに学びともに生きる」教育の推進に微力ながら努力してきたところです。 さて、特別な支援を必要とする子どもの教育を巡っては、今後のインクルーシブ教育システムの構築に寄るところが多いと思います。大阪教育大学附属特別支援学校のミッションとしては、新たな特別支援教育の研究の構築と共に「特別支援学校のセンター的機能の発揮」が求められています。附属学校園や地域の学校園との障がい理解を含む「交流及び共同学習」や様々な特別なニーズを持つ子どもへの支援体制や具体的な支援に関する教員間との連携が求められています。このような期待に応えられる附属特別支援学校の専門性を今後とも発揮して参りたいと思います。

今回、一年間の附属特別支援学校の様子について保護者向けに「校長だより」を発行してきました。学校の様子を保護者に知っていただけたらと思い月一回程度発行してきたものです。後で振り返りますと一年間の学校の流れと子どもたちの様子がみてとれることが分かりました。つたないながら一年間の活動記録として皆様に見ていただき附属特別支援学校へのご理解とご協力を賜りたいと思います。

2019 年(令和元年)吉日

大阪教育大学附属特別支援学校長　須田　正信

大阪教育大学附属特別支援学校

〒547-0027　大阪市平野区喜連４－８－７１
TEL０６－６７０８－２５８０　FAX ０６－６７０８－２３８０

概要

教育目標
・自立・社会参加に向けて一人ひとりの可能性を最大限に引き出す。
・キャリア教育の視点に立って卒業後の社会で生きる力を身につける。

小学部

学級数	1組	2組	3組				計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
男	3	2	2	2	3	2	14
女	0	0	1	0	0	1	2
計	3	2	3	2	3	3	16

【小学部の目標】
児童が健康で楽しく学校生活を送る中で、基本的な生活動作や習慣を身につけるとともに、集団生活に参加する態度を養う。また、児童一人ひとりの障害や特性に応じた教育を行うことにより、心身の調和を図り、個々の発達を促す。



中学部

生徒数	1年	2年	3年	計
男	4	3	3	10
女	2	3	3	8
計	6	6	6	18

【中学部の目標】
生徒が主体的に活動し、生き生きとした学校生活を送る中で、基本的な知識と技能を高め、個性の伸長を図る。また、集団の中で望ましい生活習慣を身につけ、社会性を養う。



高等部

生徒数	1年	2年	3年	計
男	6	5	4	15
女	2	1	2	5
計	8	6	6	20

【高等部の目標】
社会との接点になる学部として、生徒が主体的に活動に参加する。充実した学校生活を送る中で、小学部(小学校)・中学部(中学校)で培ってきた基礎的な力を、卒業後の自立的な生活に活かすことができるよう、さらに高める。



研究活動等　本校の研究と平野五校園との共同研究

2016～2018年度　本校の研究主題

Art & Science　～科学的根拠に基づいた魅力ある教育実践～

今年度で３年目（最終年）を迎えました。２年目の平成２９年度は「研究実践報告会」にて２年目の実践経過を子どもたちと共に報告させていただきながら、北は北海道、南は沖縄、総数１４３名の参会者の皆様から貴重なご意見をいただくことができました。

研究主題にある「Art」とは教員が自身の人間的魅力をいかんなく発揮し、授業に打ち込む様を意図しています。「Science」とは、実践の結果を何らかの評価指標、評価尺度をもって論じることを意図しています。教員が主体的に研究に取り組める研究体制づくりを大切に考え、教員自身が取り組みたい研究の意見を集約し、「A 授業実践の成果」「B インクルーシブ教育の推進」「C 実習生の育成」と３つのグループができました。そして、これらをもとに５つのチームが学部の垣根を越え結成されました。中でも昨年度、B「インクルーシブ教育推進のための交流及び共同学習について」チームは、文部科学省研究委託事業「学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解の推進事業（通称：こころのバリアフリー事業）」に採択され、その取り組みを全国の支援学校に発信することができました。

A 授業実践の成果グループ

「発達段階を踏まえた授業実践」チーム
リーダー：松本　サブリーダー：大西
佐伯　松井　竹内　下藤
指導助言者　三宅 亜美　講師（発達障害）

「知的障がい特別支援学校における課題関連遊具を導入した自立活動指導の実践的研究」チーム
リーダー：岩井　サブリーダー：井沢
逆岡　橋本　名加　酒井
指導助言者　大河内 裕　特任准教授（肢体不自由）

「知的障害特別支援学校における主体的・対話的で深い学びの視点に基づいた教科学習の検証～事例研究～」チーム
リーダー：義澤　サブリーダー：下岡
岡本　辻　岸本　宮城
指導助言者　今枝 史雄　特任講師（知的障害）

B インクルーシブ教育の推進グループ

「インクルーシブ教育推進のための交流及び共同学習について」チーム
リーダー：中島　サブリーダー：境
千阪　大原　禰
指導助言者　富永 光昭　教授（知的障害・病弱）

C 実習生の育成グループ

「実習生の育成」チーム
リーダー：岩崎　サブリーダー：上床
北室　古村　広川
指導助言者　平賀 健太郎　准教授（病弱）

本校の研究大会　平成３１年２月９日（土）
平野五校園研究発表会　平成３０年１１月３日（土）
詳しい情報は、本校ホームページで随時更新する予定です。
URL　http://www.fuzoku-e.oku.ed.jp/

2018～2021年度　平野五校園の共同研究主題

一人ひとりの多様な可能性を広げる評価のあり方 - 主体性を育むための目標及び評価指標の作成と活用をめざして -

大阪教育大学の附属学校園の平野地区には、附属の幼稚園、平野小学校、平野中学校、高等学校平野校舎、特別支援学校の五校園があります。社会的使命や存在意義をともに附属学校園が果たすため日々それぞれの校園で様々な取り組みが行われています。平野五校園の特色は、国立大学法人附属学校の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校が隣接して設置されていることすら全国的にもない中で平野五校園は隣接されて設置されており、お互いにそれぞれで様々な交流が取り組まれています。

平野地区にある五校園が隣接して集まっていることの特色を生かしながら、校種間の枠組みを越えた５つの校園種によって共同研究を取り組んでいること自体が全国的にも新しい試みともなっています。今年度は、相互理解を深めながら、各校園種接続を視野にいれた評価指標（略称「コモン・ルーブリック」）を作成し、研究発表会を開催する予定となっています。

保護者の皆様へ
附属特別支援学校
校長だより

NO. 1
平成３０年４月１７日
発行：附属特別支援学校
校長　須田　正信

ご入学・進級おめでとうございます
特別支援教育の推進に向けて大阪教育大学附属特別支援学校長として

着任にあたって

学校長　須田　正信

この度、前任の山本校長を引き継いで大阪教育大学附属特別支援学校長として４月１日付けで着任しました須田正信と申します。保護者の皆様には今後ともよろしくお願いします。

３月までは大阪人間科学大学健康心理学科で教職課程を履修する学生向けに特別支援教育の授業や教育実習指導等を行っていました。また、附属特別支援学校には、学校評議員として３年ほど関わらせていただきました。附属特別支援学校はこの間、特別支援教育の研究校としてまた、平野地域の大阪教育大学附属学校や地域の学校との連携を図り障害理解教育と「交流および共同学習」などを推し進めてまいりました。

保護者の皆様には学校の取り組みや教育活動へご理解いただき、益々のご協力をお願い申し上げます。

さて、附属特別支援学校の校長は大阪教育大学教授との併任であり、限られた時間でしか学校での対応ができません。しかしながら、できるだけ子どもたちや教員へのサポートができればとの思いから努力する所存です。

私は、以前の大学に勤務する前は大阪府立の支援学校の校長を３校経験してまいりました。児童生徒数や教職員が多いマンモス校でしたので、附属支援学校の少人数のアットホーム形態の学校は新鮮です。

先日、１５日（日曜日）に芙蓉会など卒業生などの集まりもありました。多くの卒業生や保護者の皆さんが集い、様々な行事を企画していることを知り、卒業しても結束しているのを垣間見ました。保護者の皆様におかれましては、卒業後を見据えた「キャリア教育」についても興味を示していただき、在学中からの取り組みにご協力をしていただければと思います。



学校へのアプローチには高等部の卒業生寄贈の看板がひときわ目立っていました。正門付近には春の花がいっぱい！
花壇は保護者に苗植が植樹して手入れをしてくれたお陰で見事に咲き乱れました。

学校正門前の風景

○本校の使命

・知的障害と認定された児童・生徒を対象とする特別支援教育を行う。
・教育の理論と実践に関わる大学等との共同研究を通じてより良い教育実践を行う。
・大阪教育大学の附属学校として教員志望の者の養成と教員の資質向上に貢献する。
・地域貢献に努める。

○本校の学校経営の基本

(1) 教育方針
・一人ひとりの人格と能力を尊重し、集団的あるいは個別的指導を通じて発達の可能性をより豊かに実現させる。

(2) 教育目標
・自立・社会参加に向けて一人ひとりの可能性を最大限に引き出す。
・キャリア教育の視点に立って卒業後の社会で生きる力を身につける。

(3) 目指す子ども像
・明るく健康で意欲的な子ども
・仲間とともに活動に参加できる子ども
・自分で考え行動できると同時に、社会の一員としての自覚を持つ子ども

＊学校要覧より引用

入学式の式辞

柔らかな春の日差しとともに、大阪教育大学附属特別支援学校の校舎には、保護者の皆さんが植樹し、手入れをしていただいたチューリップなどの花が咲き、春の訪れを誘い、うららかな良き日となりました。

本日、平成三十年度大阪教育大学附属特別支援学校入学式にあたり、大阪教育大学副学長松岡正和様はじめ、多くの来賓の皆様のご臨席を賜りましたこと厚くお礼申し上げます。

さて、改めて新入生の皆さんご入学おめでとうございます。小学部４名、中学部６名、高等部８名の皆さんは、本日から大阪教育大学附属特別支援学校の児童生徒です。はじめての学校、担任の先生はどんな先生かな、など不安が入り混じっていることでしょう。でも安心してください。やさしい先輩のお友達や先生方が皆さんのことをしっかり受け止めてくれます。一日も早く皆さんと仲良くなり、一緒に楽しく・元気に学校生活を過ごせることを望んでいます。どうか、安心して学校に登校してください。

さて、保護者の皆様、お子さんのご入学おめでとうございます。

大阪教育大学附属特別支援学校の教職員一同、全力でお子さんの教育に携わり、成長・発達を指導・支援して行くことをお約束します。

教育を巡る社会情勢は、国際化と情報の急速な進展、そして、国における特別支援教育の進展が求められています。また、世界的にはインクルージョンの実現と障害のある人もそうでない人も共に生きる「共生社会」の実現を求めています。

特別支援教育の理念は「障害のある児童生徒の自立や社会参加に向けて、その一人一人の教育的ニーズを把握して、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するために、適切な教育や指導を通して必要な支援を行うものである」というメッセージを発しています。

特別なニーズを持つ子どもの教育に携わる私たち教職員は、この理念を受けとめ、保護者の皆さんと共に力をあわせ、より良く連携して子どもに必要な指導・支援に取り組んでいく所存です。どうかよろしくご協力をお願い申し上げます。

特に、保護者の皆さんにおかれましては、子どもにとっても学校にとっても「良き支援者」となられることを望みたいと思います。そのことが相互の信頼から活力を生みだす源であると信じます。

歴史的に顧みて、大阪教育大学附属特別支援学校は、障害のある子どもの教育の最先端教育を目指し、研究校としての役割を担ってきました。この歴史的な任務を踏まえ、更なる研鑽を致したいと思います。その為には、本日ご列席いただいた関係者及び保護者の皆様には、何卒ご協力、ご鞭撻を賜りたいと思います。

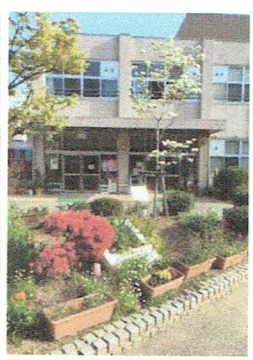
結びに、新入生の入学を祝して校長としての式辞と致します。

新入生の皆さんおめでとうございます。

平成三十年四月十日

国立大学法人大阪教育大学附属
特別支援学校　校長　須田　正信





校長室より・正門前の花壇

入学者の児童生徒

■小学部１年　３名
■小学部６年　１名
■中学部１年　６名
■高等部１年　８名
合計　１８名

よろしくお願いします。

16日から家庭訪問週間
担任と保護者との一層の連携に向けてのご協力を！

16日月曜日から「家庭訪問期間」が始まりました。教職員には職員会議で「個別の教育支援計画・個別の指導計画」の作成と活用につながるための重要な家庭訪問となると思うので、しっかり保護者との連携を図るように伝えています。そこで、保護者の皆様もお互いに信頼関係構築がさらに進むようご協力をお願いします。

個別の教育支援計画を作成するにあたって保護者のニーズや子どもの将来にわたるビジョンを共有することが重要です。そのような個別の教育支援計画を元に、日々の教育活動における長期目標や短期目標設定についてお互いに可能な限りすり合わせができれば嬉しく思います。

●4月の主な行事

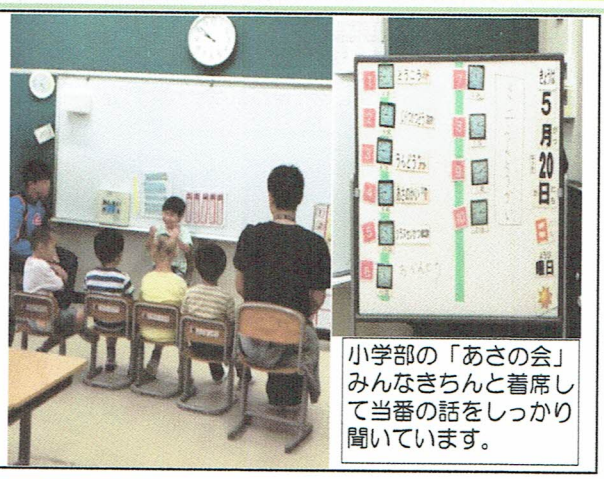
■全学部発育測定　16日（月）
■家庭訪問週間　16日～20日
■火災避難訓練　20日（金）
■PTA総会・心臓検診　24日（火）
■内科検診　25日（水）
■健康相談　26日（木）

保護者の皆様へ
附属特別支援学校
校長だより

NO. 2
平成３０年５月３１日
発行：附属特別支援学校
校長　須田　正信

授業参観・PTA主催ミニ運動会「５月20日」

５月２０日に日曜参観がありました。朝早くから多くの保護者・関係者が来校してくれました。午前中は各学部での授業参観、午後からは運動場で「ミニ運動会」をＰＴＡの主催でおこないました。親子リレーや綱引きなどがあり、青空のもと普段見られない子どもたちの姿を垣間見ることができました。親との関係、きょうだい・しまいや祖父母などアットホームが感じられるそんな雰囲気の時間だったように思います。特に「綱引き」は学部対抗などで盛り上がりました。小学部のお母さんチームが一番の力持ちだったことが証明されました。先生チームも負けてしまいました。



小学部の「あさの会」みんなきちんと着席して当番の話をしっかり聞いています。



高等部では自分の誕生日・星座や血液型など紹介していました。



中学部の授業の一場面

生徒に身近な場所の「地図記号」を考える学習の展開をしていました。

ラケットリレーで対戦しました



「赤」「青」「黄」の３チームに分かれて、小・中・高等部連携して頑張りました。

保護者による「綱引き」



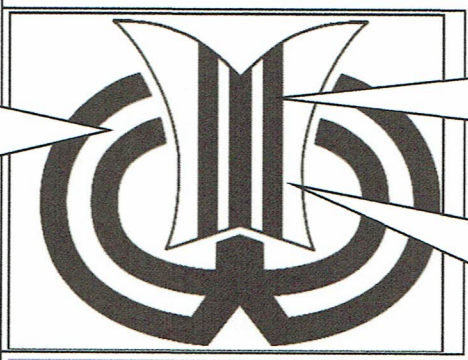
力の入った「綱引き」小学部の母親チームが一番力が強かったです

附属特別支援学校「校章」の由来

本校の「校章」はいろいろなところで見ることが多いと思います。その由来はどのような背景があるのでしょうか。今回、創立５０周年の発刊した冊子を紐解くといくつかの記述がありました。

昭和四十一年四月一日、大阪学芸大学附属養護学校が開設しました。当時は帽子につけるのではなく、胸につけるバッジとしてデザインされたもののようでした。「バッジに附養の字が入っているので、電車やバスの中で、ヨウゴ、ヨウゴノコと言われ嫌な目にあっている」とのことでした。「どうしたらいいと思う。」と問いかけると、「附養の字を入れてほしくない。」とのことでした。ここから新しい校章の制定作業が始まったようです。制定に尽力した当時の教員「近藤伸爾先生」が考えだしたのが現在の校章となったようです。

「三本の線」と「蝶々の図柄」「大の文字」の構成になっています。



附属特別支援学校の校章

先が尖ったままでは危ないのと金型を作るために前翅を支えるための針金が残りました。

３本の線は「小学部・中学部・高等部の三つの学部があることを意味しました。

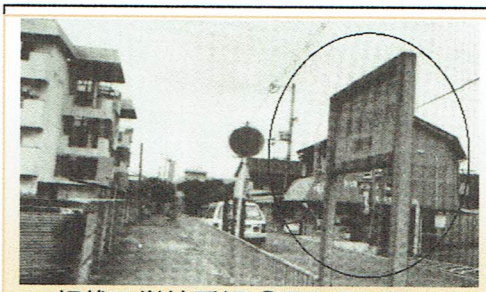
このデザインは、①チョウチョに見立て「よく遊び」②本を見立て「よく学び」③大きく羽根をひろげ、未来に「羽ばたく」「飛翔」の意味を込めました。

子どもたちからは「これならいい」と言ってもらい、職員会議で了解を得て、制定の運びとなりました。

（平成 29 年3月　近藤先生から）

大通り前にある「大阪教育大学附属特別支援学校」の看板表示は現在で第６代目

本校の学校表示看板が長居公園大通りの道路横に掲示されていることは皆さんも目にしている事だと思います。看板の歴史をたどると以外な出来事が分かります。初代は、昭和５０年～昭和６０年ですが、当時の写真を見つけることはできませんでした。聞き伝えによると、当時は木の板に本校の名前が記されていたそうです。２代目は、昭和５０年～昭和６０年鉄製のフレームに「大阪教育大学附属養護学校」と矢印が記されました。



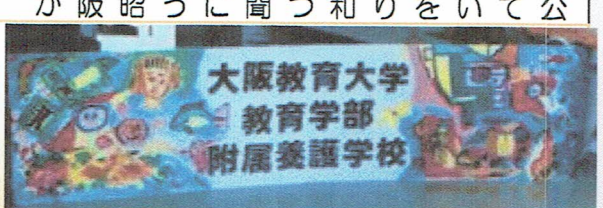
初代の学校看板「昭和 50 年」



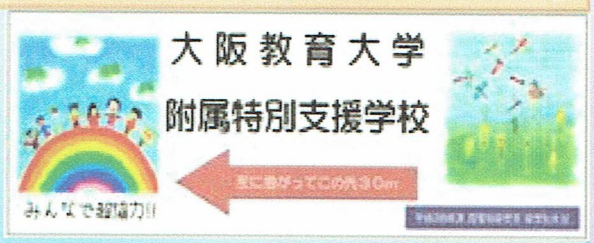
第３代目の学校看板「平成７年」



第５代目の学校看板「平成 19 年」



第４代目の学校看板「平成 11 年」



現在の第６代目の学校看板

保護者の皆様へ
附属特別支援学校
校長だより

NO. 3
平成３０年６月２９日
発行：附属特別支援学校
校長　須田　正信

6月17日 附属平野5校園PTA・教育後援会役員会が開催されました



研修会等に参加した皆さん「前列に会長と大学関係者、校園長」

6月17日に天王寺学舎にて「附属五校園ＰＴＡ関係者・学校関係者」の集まりがありました。大学からも副学長・理事・附属学校課の関係者も参加され、附属五校園それぞれの役員の紹介と学校の取り組みや研究内容などについて共有しました。全国的に見ても平野地区における5つの附属学校（幼・小・中・高・特支）が一堂に会して連携した取り組みをしているのは珍しく、附属学校改革の中で、国が求める公益性や存在意義を示す場ともなったようです。

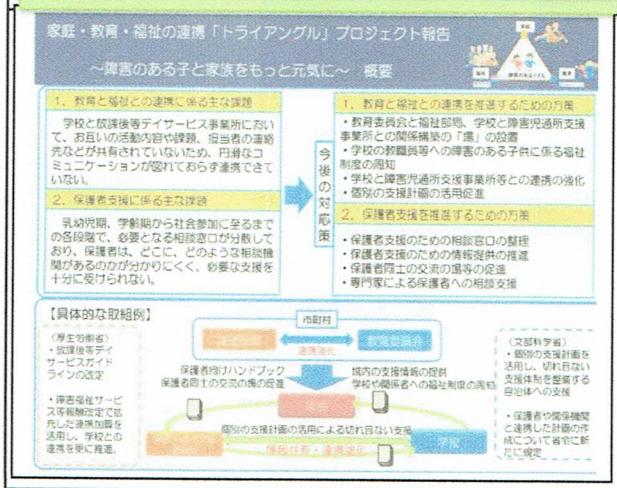
後半は、附属平野小学校長から「生命科学の進歩がもたらすもの～移植医療～再生医療へ～」と題しての講演がありました。ＩＰＳ細胞による再生医療など興味深い内容でした。

6月13日（水）近畿地区特別支援学校知的障害教育校ＰＴＡ総会・講演会にＰＴＡ役員が参加



表題にもあるようにアウィーナ大阪で総会・講演会がありました。本校から山本会長・古屋・浅利役員が参加しました。近畿地区から大勢の保護者や先生の参加がありました。

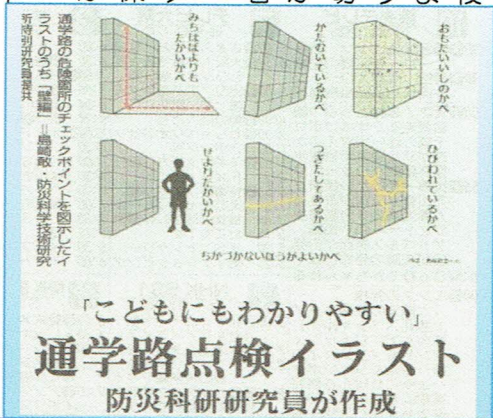
障害のある子と家族を支援する　家庭・教育・福祉の連携
「トライアングル」プロジェクトについて



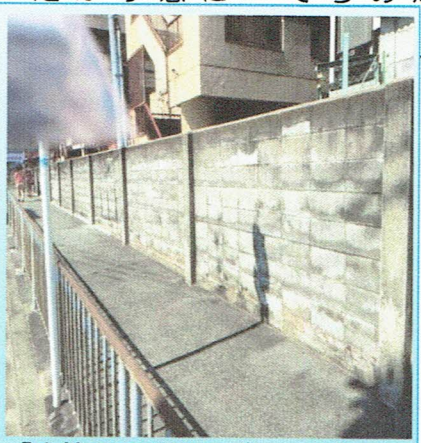
児童福祉法の一部改正による放課後等デイサービスが大きく事業展開されています。本校の児童生徒もこの制度の利用をされています。しかし、以前からこの制度利用のための各関係機関との連携が問われていました。特に学校と事業所との連携不足が問われていたことから、図にもあるように「学校・家庭・障害児通所支援事業所」が情報を共有し・連携を強化する旨の方策が検討されてきました。特に学校が作成している個別の教育支援計画を事業所も共有して活用することで放課後活動を豊かにすることにつながり、教員と事業所の相互理解になるようにする必要が求められます。

6月18日　大阪北部地震発生と教訓

6月18日、7時58分に大阪北部を震源とする震度6レベルの地震が発生しました。朝の出勤・登校時間だっただけに、大都市の交通手段である電車等がストップするなどして大阪は大混乱に陥りました。学校も早期対応を迫られました。休校措置や自宅待機などを検討しつつも、教職員の確保ができていることと、登校途中の手だてやリスクを検討しながら、子どもの安全確保を判断して無理のない運用を図りました。当日は登校できた子どもたちにも大きな混乱はなく、一部形態を変える等の手だてをこうむり、学校は混乱なく過ごすことができました。しかし、当日予定していた大学の教育実習オリエンテーションは、電車での登校ができないことから中止としました。このような事態の中で今後の教訓を引き出すことが大切です。防災や減災などを日頃から備えること、災害時の障害者の対応として避難先の障害児への対応や電車内でのコミュニケーション手段など、当事者や保護者、学校から発信することが重要なテーマとなります。



危険なブロック塀のイラスト
（毎日新聞２３日より）

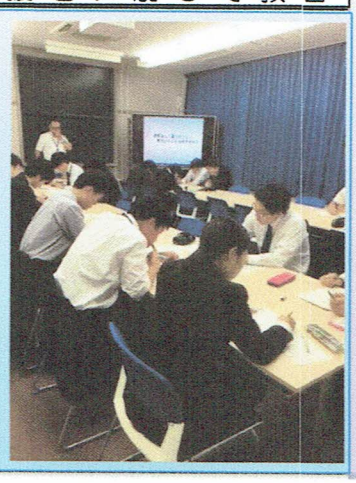


「本校の通学路のブロック塀」
歩道から危険回避する幅が狭い

大阪北部を震源とする地震が発生し、登校中の女子が被害に遭遇するという痛ましい事故がありました。国・府においても早速学校周辺のブロック塀についての調査がありました。本校でも老朽化したブロック塀が目立ち、数か所にも亀裂もある等、改善が必要なことが見られました。

介護等体験実習や実習ガイダンスなどで毎日学生が来校しています。

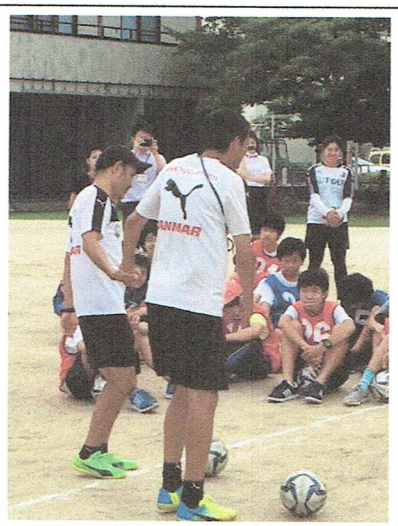
附属特別支援学校では、この間毎日のように大学の学生が体験実習や教育実習の事前指導のために来校しています。将来教員になるにはまず、5日間の福祉施設実習と2日間の特別支援学校の実習が義務づけられています。教育大学の附属校なので年間を通して約６００人の学生が特別支援教育のことをほんの少しですが知る機会となります。今後のインクルーシブ教育を進めていくうえで重要な取り組みとなっています。



28日「セレッソ大阪」が来ました



「セレッソ大阪」のメンバーが来校してサッカーの手ほどきをしてくれました。



今回は、附属平野中学校との交流及び共同学習の一環でもあります。ドリブルなどの実演を見せてもらい、それを一緒に手をつないで協力して頑張っていました。次回は車いすスポーツ選手が来校しての取り組みです。

保護者の皆様へ
附属特別支援学校
校長だより

NO. 4
平成３０年７月２０日
発行：附属特別支援学校
校長　須田　正信

一学期を終えるにあたって
様々な学校行事とPTA活動に感謝！

一学期も二十日に終業式を迎えました。一学期を振り返って、様々な行事や学習活動があり、ＰＴＡ・保護者の皆さんのご協力に感謝いたします。

昨今の大水害や地震など自然災害が多発した一学期だったように思います。しかしながら、子どもたちは元気に登校し、勉強や多くの行事にチャレンジしてくれました。先日の十一日～十三日まで高等部の臨海学舎に校長も初めて参加させていただきました。

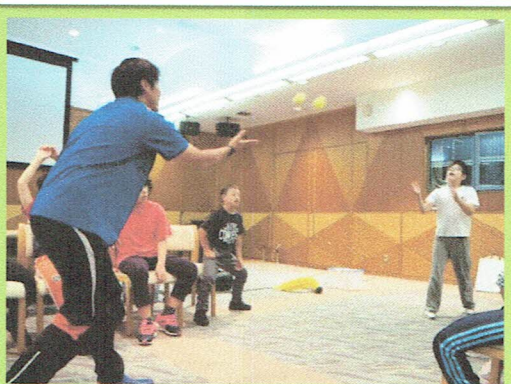


高等部臨海学舎
淡路島「明石海峡大橋」前で、最初の休憩地点である大橋がみえる前で全員で写真を撮りました。

当初は「海水浴」と聞いて不安を感じていたのですが、天候にも恵まれ、元気に海に浸かって、楽しんで泳いでいる生徒を拝見し、まずは一安心。クラゲの出現や海藻、砂や小石がいっぱいの自然環境を目の当たりにすることで、学校のプールでは体験できない貴重なものだったのだと思います。



高等部「慶野松原海水浴場」みんなで手をつないで,「つめたい！」「くらげがいた！」

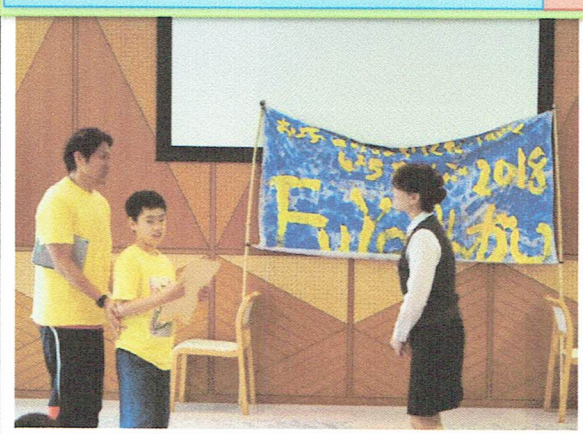


小学部「室内ゲーム」外は雨！でも室内では楽しく各クラスから出し物をしました「ナイスキャッチ！」できたかな？

小学部　臨海学舎
淡輪海水浴場・海洋センター

小学部の臨海学舎が七月四・五・六日にありました。３日間のお天気が心配でしたが、案の定、大雨や嵐となってしまいました。楽しみにしていた海水浴ができなく、残念でしたがその分、海洋センターや室内遊びを謳歌しました。最終日の六日は、大阪府に朝から大雨警報が出ておりその後も、西日本地域全体に大雨洪水・災害警報が乱発されるなど不安がいっぱいの中、計画を取りやめ、正午に帰校しました。

学校は、中・高等部も午後からの授業を取りやめて帰宅させることにしました。年々、気象環境の変化で、今までの予測とは違う事態が発生しうる可能性があることを感じます。



入館式でホテルの人に挨拶しました

教育大附属平野小・中学校との交流

小学部・中学部は一学期、附属平野小・中学校と「交流および共同学習」に取り組みました。お互いが協力して課題をクリアするなど、楽しく取り組む中で、お互いを理解するそんな機会になればと思います。



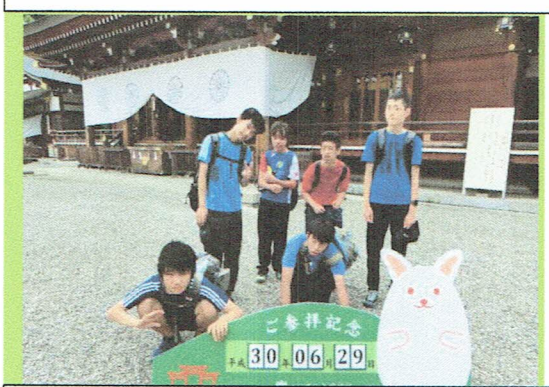
車いすスポーツの岩﨑剛さんを招いて車いす体験をしました。附属平野中学校の生徒と一緒に「車いす体験にチャレンジ！」



附属平野小学校との交流「大玉転がし」をしました。「お互いに協力して回れるかな？」「無事ゴールできたかな？」

中学部の一学期の主な行事

中学部も一学期、様々な行事に取り組みました。交流行事もそうですが友だちとの親交を深め、お互いを思いやる気持ちを育てることの大切さを意識しています。



６月２９日に「山の辺の道」にハイキングにいきました。「私たちは快速コース組」



７月１８日に舞洲スポーツセンターに行きました。「プールに入ったよ！」

卒業生の新木友行さんが英国ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ（王立芸術院）に作品を出品

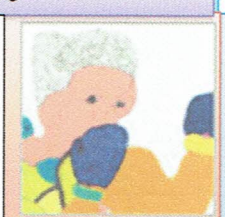
先日、朝日新聞に卒業生のことが掲載されていました。小学部の大島先生から紹介してもらいました。プロレスやボクシングなどの格闘技の人物を力強く描いており、英国の伝統公募展に出品した作品が選ばれました。選ばれた作品は下記の絵ですが、色鉛筆で描いていますが既に買い手がついたとの報道です。闘う2人の鍛えられた筋肉が強調されている作品です。

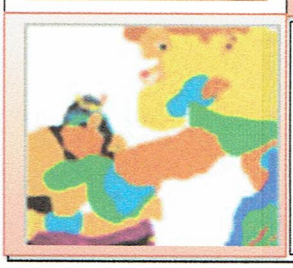
新木さんは知的障害のあるアーティストたちの作家としての自立を支援する「アトリエインカーブ」に所属して、格闘技をテーマに多数描いています。作品名は「丸藤正道 VS オカダ・カズチカ」だそうです。



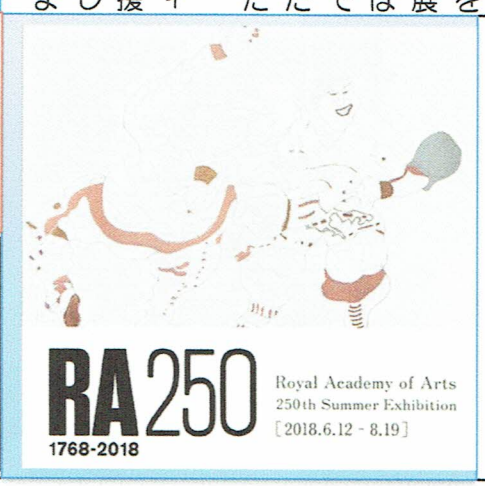
卒業生の新木友行さん











保護者の皆様へ
附属特別支援学校長だより

NO. 5
平成３０年９月２７日
発行：附属特別支援学校
校長　須田　正信

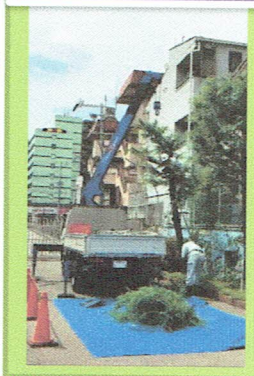
「二学期」
様々な行事や学習活動に取り組む



始業式９月３日「まだまだ暑いので集会室で実施

９月３日に後期二学期の始業式を行いました。まだまだ暑い日が続く中ですが、しばらくぶりに元気な顔を見せてくれた児童生徒たちはそれぞれ夏休みの思い出を元気よく語ってくれました。そうしているうち、４日には大型台風二十一号が関西を直撃予定で甚大な被害が見込まれるため、翌日は休校措置としました。結果、台風後はプレハブ舎や樹木の被害、飛来物の散乱などがあり、５日も休校措置を取って、児童生徒の安全確保に努めました。本校以外の平野地区の附属校では大きな被害があり同様に休校措置がとられました。

台風二十一号の猛威



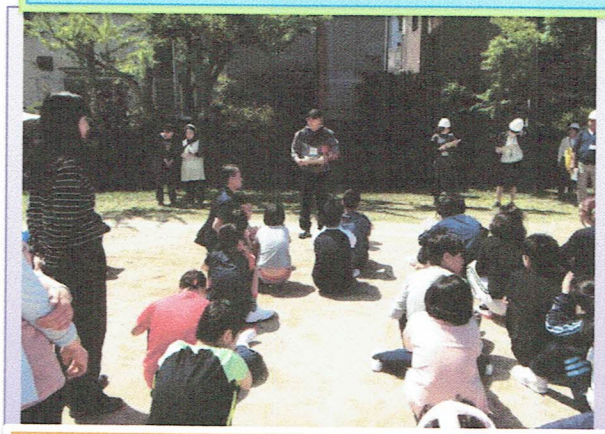




大型台風によって学校の樹木にも大きな被害がありました。職員総出で後片付けや業者対応などに追われました。この間、自然災害続きですが、ＰＴＡでも「防災」についての勉強会をする計画です。

校庭の樹木に多くの被害がありました。翌日、復旧に向けて業者に入ってもらい、学校再開を急ぎました。

９月12日～14日：中学部「曽爾高原へ林間学舎」大阪とは気温19度以上の差



火災の避難訓練を行いました。



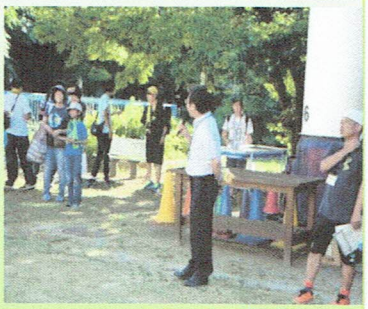
中学部は大きな行事として林間学舎を実施しました。あいにくの雨や霧でハイキングができませんでしたが、カレーライスを作ったり、室内での工作活動に取り組んだりしました。

7月21日PTA主催「夕べのつどい」を開催

夏季休業中にはＰＴＡ主催の「夕べのつどい」が開催されました。近隣の住民や卒業生・保護者など多くの人たちが集まり、楽しいひと時を過ごすことができました。今年は特段の猛暑続きなので、当初は中止も検討しましたが、計画を変更して暑さ対策などを含めた内容で実施をしました。卒業生の芙蓉会やハッピー会からも参加され、模擬店を開いてくれました。お礼申し上げます。フィナーレは、運動場で吹上花火を鑑賞して閉会としました。ありがとうございました。



暑いさなかの「焼きそば」づくりに奮闘



校長から「皆さん、熱中症防止のために水分補給をしてください」と注意喚起。



子どもたちも先生や大学サークルの学生と一緒にリズムダンスをしました。



ＰＴＡの皆さんも販売に大奮闘です。

「ＰＴＡふようバザー」九月八日小雨ながら近隣住民の皆さんが来校してくれました。物品提供してくれた皆さんに感謝。

九月八日に「ふようバザー」がありました。早くから値段付けの準備や当日の販売などで活躍された係の皆さんにはお礼を申し上げます。当日は小雨ながら、近隣の住民も列を作って購入していただき感謝です。卒業生が通う近隣の福祉事業所からも出店などの参加もあり交流の場ともなりました。トイレットペーパーなどは卒業生の保護者からの提供とお聞きしています。感謝です。



卒業生が通う福祉事業所からの出店



観葉植物も完売しました。



トイレットペーパーやティシュペーパーは人気商品でした。

保護者の皆様へ
附属特別支援学校長だより

NO. 6　保護者向け
平成３０年１０月２９日
発行：附属特別支援学校
校長　須田　正信

10月13日「ふようまつり'2018」開催
秋晴れの下　元気に演技し、走りました。

十月十三日(土)に、恒例の「ふようまつり」が晴天のもと開催されました。児童生徒で実行委員会を作り、様々な内容を披露してくれました。「運動会」だけに限らず、「文化祭」としての様相も盛り込んだ取り組みです。各種演技を午前中に行い、午後からは模擬店やゲームコーナー、生徒が作成した作品販売など保護者、児童生徒、卒業生を交えてのイベント形式です。学校評議委員からのアンケートコメントもいただきました。「子どもに寄り添った内容でり、良かった」や「保護者・卒業生も参加できる種目」など好意的な評価を受けています。



児童生徒の入場です。彩を添えて行進！


小学部「３びきのこぶた」かわいらしい子ブタさんが登場！オオカミとのたたかいに勝ちました！


中学部「ダンスっていいな！祭りだ！和っしょい！」で、様々な演技を披露してくれました。


高等部「呼ばれて飛び出てFUYO大集合２０１８」では色々なキャラクターに扮して登場


「赤」「青」「黄」３チームでのリレー競技
今年は赤チームの優勝でした。

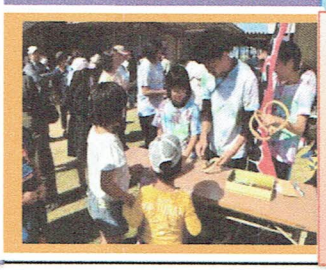
開会式「校歌を全員で歌いました」
すくすくのびる　つくしんぼ　♫
おおぞら　とべとべ　あかとんぼ　♪



午後からは「ゲームコーナー」「模擬店「生徒作品の販売」「応援合戦」「綱引き」そして、「ふよう音頭」をみんなで踊りました。









スポーツフェスタ２０１８に有志参加

十月二十日(土)に「ヤンマースタジアム長居」にて「スポーツフェスタ」が開催されました。本校からは各学部有志の児童生徒が参加しました。保護者の方々も応援や伴走などに繰り出していただきましてありがとうございました。校長は午後からの参加でしたが、入賞した児童生徒にメダルをかけてあげられたのでとてもうれしかったです。



大きな陸上競技場で走りました。

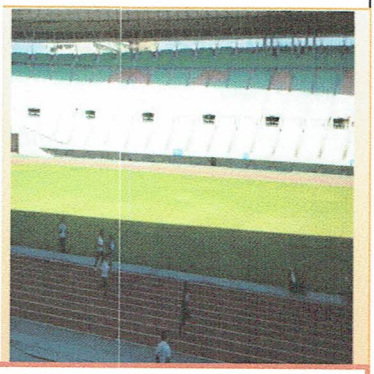


「附属リレーチーム」奮闘むなしく６位。相手は強かった



入賞メダルをかけてもらいました。「バンザイ三唱」をしてもらいました。





スタンドからの応援に応えたかな？

中国湖北省教育庁特殊教育研修団の皆さんが附属特別支援学校に来校しました。

十月十六日（火）に中国からのお客さんが本校にお見えになりました。中国の特殊教育の関係者二十名が日本の特別支援教育の現状と学校の様子について熱心に視察されました。校長からの説明と研究部長からの本校の研究内容、各部主事から学部の取り組みなどについて説明をすると、たくさんの質問があり、共に障がいのある子どもの教育に携わる関係者として、その熱意が伝わりました。当日の写真は掲載できませんが、最後に中国の特殊教育を受けている生徒が作成した切り絵をいただきました。中国と日本のそれぞれの女の子をモチーフにしている切り絵だそうです。校長室に飾っていますので、機会あればご覧ください。



23日 PTA主催「防災」学習会

講師；枚方寝屋川消防組合
消防司令　清水　忍さん

研修会では、多くの保護者の参加があり、寺本学級委員長の講師紹介から始めました。

講師からは、3.11 の東日本大震災や熊本地震など、多くの災害発生からの教訓を学ぶことで今後の防災・減災に生かすことが大事だとのお話をありました。

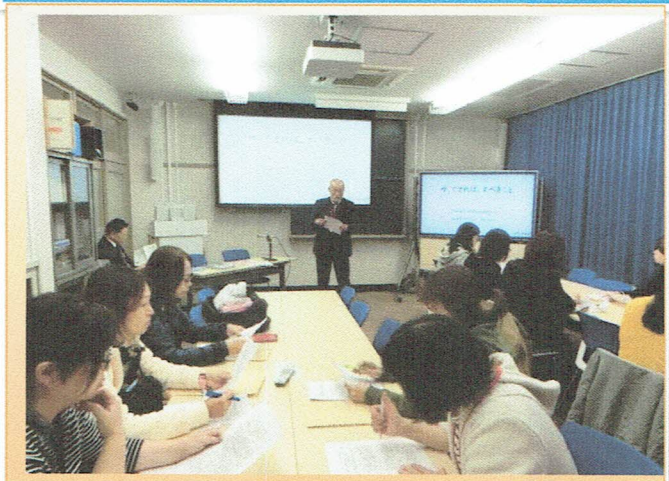
災害時の映像を目の当たりに見て、改めて地震の怖さを実感するとともに、備えの大事さをひしひしと感じました。日本に住んでいる以上、地震や台風など自然災害は避けて通れません。障がいのある子どもを守るための手だてや避難先の対応マニュアルなど関係者が着手することが大事かと思います。

保護者の皆様へ
附属特別支援学校長だより

NO. 7　保護者向け
平成３０年１２月７日
発行：附属特別支援学校
校長　須田　正信

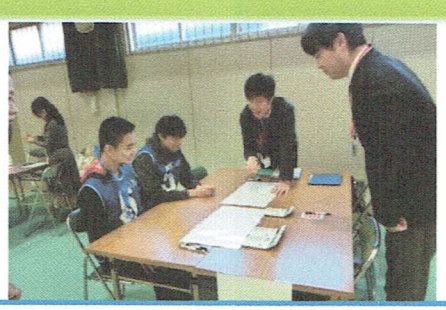
今年のカレンダーも師走の時期
学校の取り組みあれこれ紹介

中学部「地域連携体験授業」と保護者向けの講演会



十一月二十八日に中学部で「地域連携体験型授業」がありました。午前中に十三の事業所の協力があり、生徒たち向けに様々な作業や体験活動を実施していただきました。午後からは、大阪市就労・生活支援センター所長の前野哲哉氏をお招きして「今、できれば、すべきこと」と題して保護者向けの講演をしていただきました。前日にも生徒向けに「マナー講座」を開催しました。

■中学部生徒たちがそれぞれの体験ブースを選んで「体験学習」に臨みました。多くの事業所から協力していただき貴重な場を作ってもらいました。



「文字のなぞり」上手に文字が書けますように！



細かい手作業が求められますが果たしてどうかな？



コーヒーをおいしくうまく入れる方法は？

教育大学からの教育実習（3 週間）貴重な経験を糧としてください

十一月二日から三週間、教育実習がありました。十五名の学生がそれぞれの学部に配属されて教育実習に取り組みました。期間中は児童生徒にとっては幾分戸惑いがあったかもしれませんが授業中や普段の生活場面でも熱心に協力してくれました。将来教職を目指す学生にとっては、附属特別支援学校での経験がひときわ大きいものになることだと確信しています。指導していただいた先生方に感謝です。



高等部の教育実習生の授業風景「携帯電話のマナー」

附属平野五校園研究発表会「11/3」開催

十一月三日に附属五校園共同開催の研究発表会とシンポジウム・ポスターセッションがありました。本校からは研究部長の岩崎先生が「本校の研究内容」について発表をしました。平野五校園では特別支援学校を含めた連携協働から「交流および共同学習」における横のつながりや小・中・高校の縦のつながりなど「主体性を育むための教育目標及び評価指標の作成と活用を目指して」とする研究内容を意図しています。



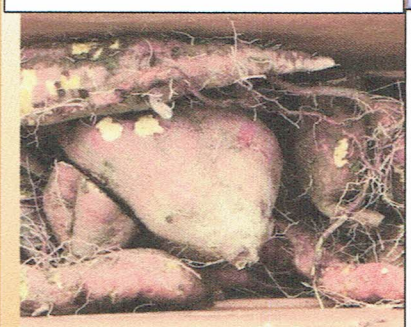
●当日は、附属高校で指導助言者の先生を交えて五校の先生方からそれぞれの実践報告を発表してもらいました。

高等部と小学部 大学農園での交流

先日大学の農場に初めて見学に行きました。当日は青空のもと、高等部と小学部との芋掘り交流でした。広大な敷地と高台に広がる農場で小学部と一緒に芋掘りをして大きな芋の収穫がありました。高等部は定期的にスクールバスで大学農場に出向いて農業体験を行っていますが、大学まで行く時間などの課題も抱えています。

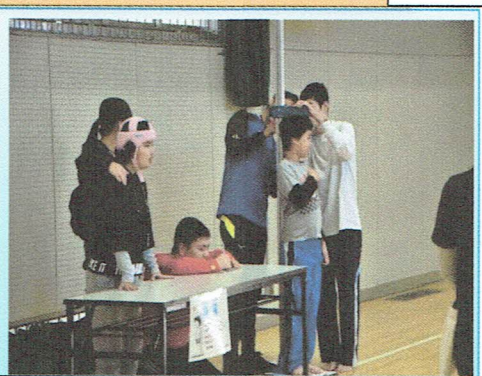


大学農園で収穫できた大きなお芋です。

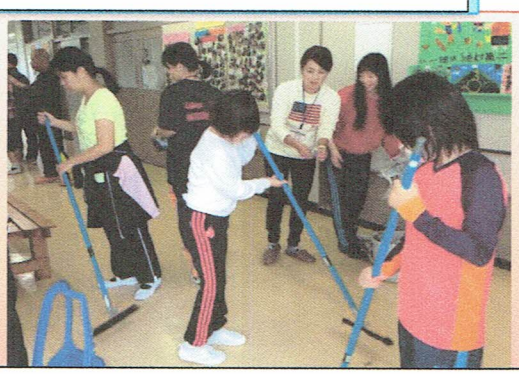


本校の特色 学部をこえた連携の取組 「ふようタイム」の実践

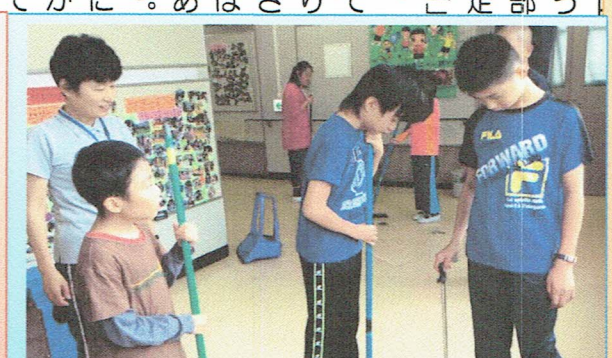
本校の教育課程の特色として「ふようタイム」があります。小・中・高等部の児童生徒が共に活動する時間を設定しています。十一月の「ふようタイム」については、校内清掃がありました。子どもたちにとっては暦年齢を超えて共に協力し、助け合う経験の場となります。教育的にはその効果が生み出されていることだと思います。地域では子供会などの縦のつながりの組織がありますが、それも今や衰退の状況です。学校の中で横と縦のつながりを大事に実践していくことの意義があることから他にも「合同発育測定」を実施して連携を図っています。



「合同発育測定の実施」中学部のお兄ちゃんに身長を測ってもらいました。



小学部と中学部と一緒に掃除をしました。教育実習の先生も助けてくれました。

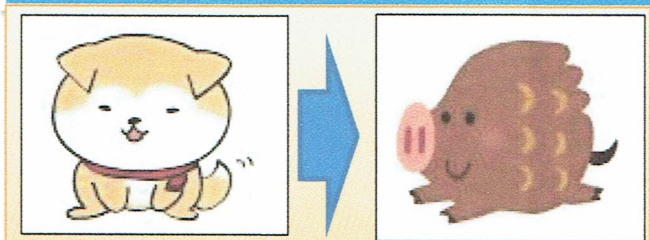


先生が見守る中、小学部と中学部が協力して上手く履けてきれいになったかな？

保護者の皆様へ
附属特別支援学校長だより

NO. 8　保護者向け
平成３０年１２月２０日
発行：附属特別支援学校
校長　須田　正信

20日「終業式」 冬休みに入りますが、風邪など引かないで元気に過ごしましょう！



戌年から亥年へ

2019年は、亥年です。干支、十二支では最後の12番目に当たります。亥は、猪突猛進という言葉で知られるイノシシですが、目標に向かって、まっしぐらに突進して勢いのある年になるかもしれませんね。

今年も残すところわずかとなりました。終業式を迎え、冬休みに入りますが風邪など引かずに元気に過ごしてください。平成最後の年になります。今上天皇が生前退位の意向を示されましたので、皇位継承直前の来年五月には新元号が制定されると思います。さて、新しい年はどんな年になるのでしょうか。干支では「戌」から「亥」に移ります。「猪賭猛進」は良きにしろ、悪しきにしろ、不安を醸し出しますが、できれば新しい年は世の中も自然も平安であってほしいと願っています。保護者の皆さま、よいお年をお迎えください。

■大阪府立支援学校の「フレンドリーサッカー」に参加しました。人工芝の「堺サッカートレーニングセンター」で３試合対戦

＜対戦相手＞

- 箕面支援ＶＳ附属　「０対８」
- 生野支援ＶＳ附属　「３対３」
- 寝屋川支援ＶＳ附属「交流試合」

■3 試合を戦って上記のような結果でした。寒い中、生徒たちはよく走り、時には立ち止まり奮闘しました。



ユニフォームをそろえてイザ対戦！
みんなしっかりゴールを目指してね



保護者も応援。しっかり走って頑張ってね！

大阪教育大学広報誌「天游」の「附属学校園ウオッチ」で附属特別支援学校の取り組みが紹介されました。

教育大学の広報誌 Vol.46 号で、セレッソ大阪が来校してのサッカー教室について紹介されました。本校中学部生徒と附属平野中学校の生徒35人との協働で楽しく取り組んだこと、ミニゲームを通して交流を深めたことなどです。セレッソ大阪スタッフの長谷川健さんからのコメントも掲載されていますのでご覧ください。



大阪教育大学
附属学校園ウォッチ　Affiliated School | Osaka Kyoiku University

附属学校でセレッソ大阪がサッカー教室を実施

セレッソ大阪が運営するサッカースクールのコーチによるサッカー教室が、附属特別支援学校で開催され、同校と附属平野中学校の生徒ら35人が参加しました。

これは、本学とセレッソ大阪とのフレンドシップ協定に基づき、本学との交流事業の一環として企画されたものです。普段は異なった教室で学んでいる両校の生徒たちが、スポーツを通して一緒に学習し、共に助け合って協働する力を身につけることを目的に行われました。

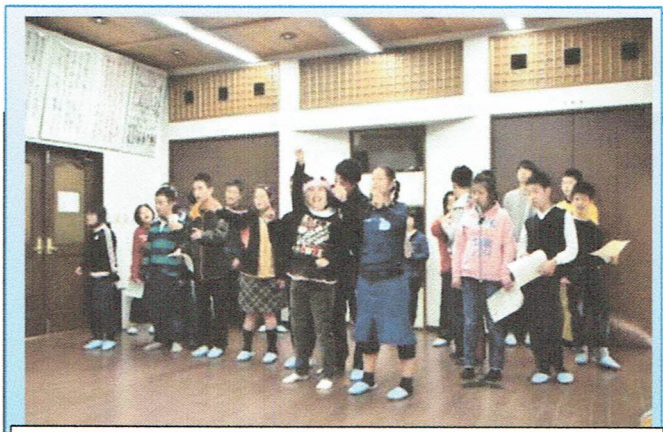
なでしこリーグの現役選手や、元Jリーグ選手らの指導を受け、生徒たちはパスやドリブルをしながら障害物をかわす練習を行いました。コーチらの巧みな技術を目の当たりにし、生徒たちも感嘆した様子でした。その後、生徒たちは3つのチームを作り、総当たり戦のミニゲームに挑戦。元気いっぱいにサッカーを楽しみました。

参加した生徒たちは、「選手3人対生徒全員でも、選手3人の方が強かった。プロはすごい」などと声を弾ませ、生徒たちへの事前事後指導などにあたった附属特別支援学校の中島弘貴教諭は「子どもたちは本当にサッカーが好き。来年度もぜひ実施してほしい」と喜びました。また同校の長江京子副校長は、「あっと言う間の1時間で、子どもたちが友達と一緒に活動する喜びを味わえる機会になりました。コーチの指導も、楽しく学べる工夫をされており、すばらしいものでした。このような機会を継続して持っていきたい」と語りました。

セレッソ大阪スタッフの長谷川健氏は、「スクールで普段からサッカーをやっている子どもに教えるのとはまた違う面白さや、楽しい時間を過ごすことができました。アカデミックパートナーである大教大とは、今後も双方のリソースを活かした様々な連携事業を行っていきたいと考えています」と述べました。

中学部音楽会開催

中学部は、十八日に「音楽会」を開催し、中学部の皆さんから2グループに分かれて歌を披露してもらいました。曲名は「RAIN」と「世界にひとつだけの花」でたくさんの観客の前で歌うことができました。上手でした。



■中学部全員一体となって合唱！
うまく歌えました。感動です。



■マイクで熱唱！
どうですか？

高等部「社会見学」

高等部は十二月十四日（金）、各学年で社会見学に出かけました。高1は「ワークセンター中授」、高2は「こはる苑」、高3は「京都鉄道博物館」へ行き、それぞれが思い出に残る社会勉強をしてきました。







■高等部は自立に向けた「社会見学」を実施し、それぞれの学年ごとに場所を選定して有意義に体験をしました。

小学部「お楽しみ会」

小学部は十二月十三日（木）に年末お楽しみ会がありました。この日のために長い時間をかけてお母さんたちが準備や出し物の練習をしてくださっていました。ありがとうございます。児童のみなさんも劇や演奏等楽しむことができ、サンタさんにプレゼントをもらうことができました。

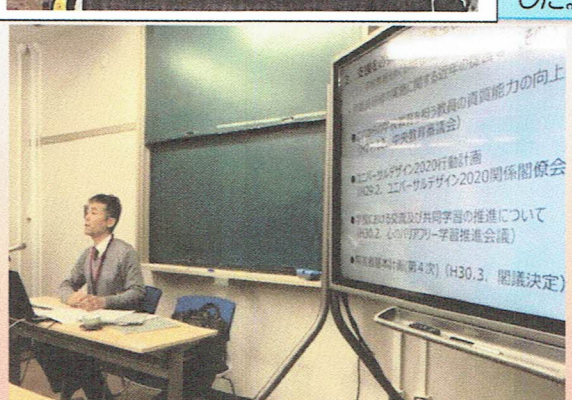




みんなで楽器演奏・お母さんからのプレゼント演奏もありました。

教職員向けに「人権研修」を実施しました

十二月十一日に、大阪府教育庁支援教育課主任指導主事の武田先生をお招きして「校内人権研修」を開催しました。障がいのある子どもの人権と題して、アレルギー除去食が必要な子どもへの対応や子どもへの体罰防止などを含め、府立支援学での事例などを交えてお話しいただきました。附属特別支援学校の先生の多くは、府立学校との人事交流の先生が多いので、府立校の様子や大阪府の支援教育の現状を学ぶ良い機会にもなりました。



「人権研修」大阪府教育委員会　武田先生

保護者の皆様へ
附属特別支援学校長だより

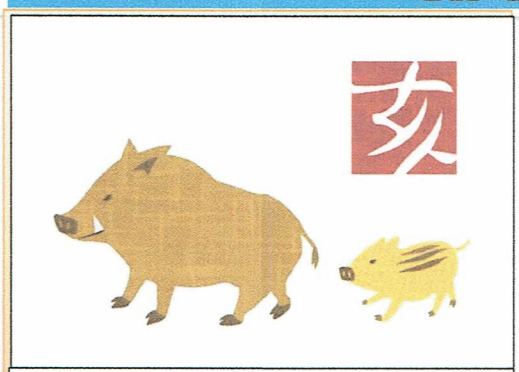
NO. 9　保護者向け
平成３１年　１月２２日
発行：附属特別支援学校
校長　須田　正信

2019年　新年おめでとうございます
新学期スタート！

保護者の皆様、新年あけましておめでとうございます。年頭に当たり校長からも謹んでお祝いを申し上げます。

さて、学校は8日に始業式を行いました。冬休みを経て新学期を迎え、再び元気な子どもたちの姿を拝見することに喜びを感じます。三学期は寒さが厳しい季節です。流行性感冒に気をつけて過ごしたいものです。

さて、皆さんは新年をどのように迎えましたでしょうか。平成が今年で終え新たな元号にもなる年です。昨年末の一年間を象徴する漢字一文字は「災」でした。確かに自然災害の多い旧年中でしたが、新しい年は「災い転じて福となす」となるように祈念したいものです。今年もよろしくお願い申し上げます。



亥年もよい年となりますようにと願をかけました。皆様のおみくじはいかがでしたか？私は「小吉」でした

高等部の活動



高等部は新学期早々「地域貢献活動」として清掃活動を「瓜破・大和川・喜連」の３チームに分かれて実施しました。



小・中・高等部代表による冬休みの思い出の発表をしました。



校長から 2019 年新年の挨拶をしました。

授業参観「1月20日」

日曜日 20 日には「授業参観」が行われ各学部とも保護者の皆さんへの授業公開を行いました。





中学部の活動「書初め」

力強い筆さばきと独創的な書です

小学部の活動

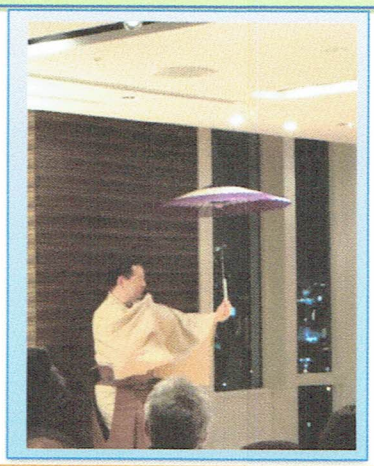




新春の凧あげをしました。

「持久走記録会」にむけたランニングを頑張っている様子を保護者の皆さんにみてもらいました。

新春附属平野五校園新年互礼会「1月12日」



年初めの一月十一日に平野五校園の「新年互礼会」がありました。PTA会長はじめ教育後援会の役員様も出席しての会合となりました。大学から附属学校部長の井上先生や林参事も来賓として出席され、お祝いの言葉をいただきました。例年、平野五校園では共同研究発表やその取り組みを共有しており、今年も研究テーマに沿って更に深めることの報告について佐藤校長先生からありました。また、附属五校園のPTA等の共同の取り組みとしては「ひらのBOSAーキャラバン」が3月16日(土)にありますのでご参加よろしくお願いします。

宴席には、附属平野中学校PTA会長の高田浩志さんから歌舞伎の所作と演舞を披露していただきました。華やかな一幕を鑑賞することができました。

大阪教育大学「YOSAKOI ソーランサークル凛憧」さんや「教育大学芸術専攻コース・アンサンブル」、「府立平野高等学校書道部」の皆さんもお祝いの演奏・演舞を披露してくれました。ありがとうございました。

20日:盛大に「ふよう成人式」開催

今年 20 歳を迎える 8 人の附属特別支援学校を卒業した新成人を祝う会が開催されました。主催者の芙蓉会・パッピー会と中・高等部在校生や保護者・教職員も含めて多くの人でお祝いをしました。

8 人はそれぞれの場所で活躍していますが、成人を契機にさらなる活躍を期待したいと思います。



「白雪舞う　暁に　未来への道　一歩ずつ」



大教大サークル「凛憧」のパフォーマンスに拍手喝采！



今年成人を迎えた 8 人の卒業生。多くの人に祝っていただきました。



府立平野高校書道部のパフォーマンスを見せてくれました。



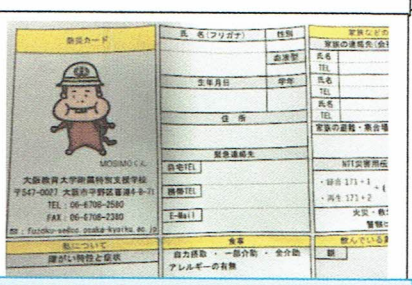
高等部在校生から新成人に花束と記念品を贈呈しました。



パーティーには、卒業生・芙蓉会の会員も参加してお祝いをしました。



大阪教育大学芸術専攻コース・アンサンブルの皆さんの演奏



防災カード「MOSIMO」くん

PTAで子どものための「防災カード」を検討しています。

二十二日にPTA代表者会議がありました。その際に話題になったのが「防災カード」です。災害時に子どもたちが療育手帳と一緒に携帯できるカードを検討しています。マスコットの「MOSIMOくん」に必要な情報を記載しておくものです。今後実行に向けて検討していくこととなりました。3月16日は「防災キャラバン」があります。

保護者の皆様へ
附属特別支援学校長だより

NO. 10　保護者向け
平成31年　2月15日
発行：附属特別支援学校
校長　須田　正信

本校の研究大会「2月9日」開催
Art & Science 科学的根拠に基づいた魅力ある教育実践



■開会式「壇上には大学副学長・理事・部長はじめ特別支援教育講座の先生方、本校評議員・大阪府教育委員会、文部科学省の来賓の皆さんが参列しました。

一月九日(土)に本校の研究大会が盛大に開催されました。北海道から九州地域までの参加者があり、総勢二百名で小さな学校敷地が熱気に包まれ溢れんばかりでした。年度末でもあり寒い日でしたが、公開授業や分科会、ポスター発表、記念講演などの各プログラムには熱心に参加されている方々ばかりでした。今年のテーマは「Art & Science 科学的根拠に基づいた魅力ある教育実践」と題して、五つの分科会、学部それぞれからの公開授業を行いました。先生方は大会成功に向けて日夜、準備に余念がなくこの日を迎えることができ、ホット一息ついたところです。

開会式・公開授業

■午前中は各学部での公開授業がそれぞれありました。前半３会場、後半４会場と各教室での授業が公開されました。



■校長から主催者を代表して参加者・来賓にお礼を述べました。



■小学部の公開授業　Aグループ③
「おんがく」
「みんなでミュージカルを作ろう」



■クローク係

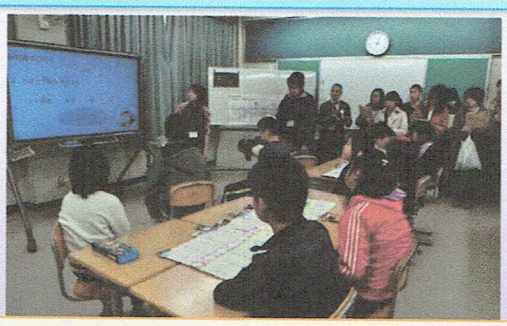


■アンケート回収

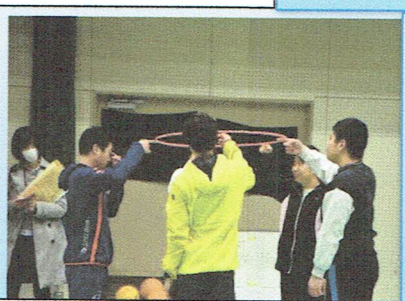
■保護者・学生ボランティアの皆さんから受付・クローク等ご協力いただきました。



■受付



■中学部の公開授業　Aグループ①
くらし(社会)
「生活と鉄道について考えよう」



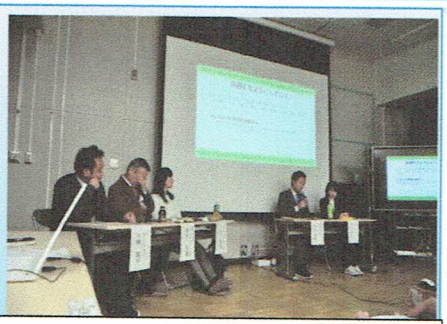
■高等部公開授業
Aグループ②
「自立活動:からだ」



■中学部公開授業Bグループ
「交流及び共同学習」

研究大会分科会・ポスター発表・講演会

午後からは五つの分科会に分かれて、発表・意見交換を行いました。各分科会では三年間、積み上げた実践と研究成果について報告しました。分科会の参加者を交えて意見交換や質問の時間をとり、指導助言の先生からは様々に有益なご指導をいただきました。記念講演の前にポスター発表を体育館で行いましたところ、十一本のポスター参加がありました。附属特別支援学校以外からも参加があり、有意義な時間を過ごすことができたと思います。講演会は、文部科学省の特別支援教育調査官である中村大介先生からお話をいただきました。多くの人たちの熱気で成功裏に収めることができたと思います。当日、PTA役員や保護者に皆様からもご協力を賜りましたことお礼を申し上げます。



■A1チーム;「発達段階を踏まえた授業実践」 ●指導助言者;「三盃先生・仲矢先生」



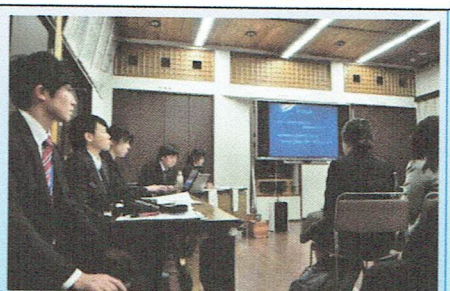
■A2チーム「知的障害特別支援学校における課題関連図を導入した自立活動指導の実践的研究」
●指導助言者;「大内田先生」



■ポスター発表①
●外部からのポスター発表
多くの参加者がありました。



■ポスター②
●本校の研究チームからの発表
熱心に説明を聞いていました。



■A3チーム「知的障害特別支援学校における主体的・対話的で深い学びの視点に基づいた教科学習の検証～事例研究～」
●指導助言者;「今枝先生」



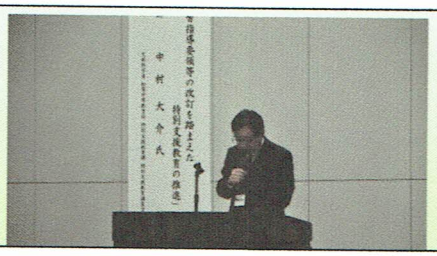
■Bチーム「インクルーシブ教育推進のための交流及び共同学習について」
●指導助言者;「冨永先生」



■Cチーム「実習生の育成」
●指導助言者;「平賀先生」

記念講演・閉会式・まとめ

「研究大会」の講演会では、文部科学省の中村大介調査官から学習指導要領の改訂を受けて、知的障害のある子どもの教育の指導について様々な例示を示していただき分かりやすく解説してもらいました。



■大会の閉会式とまとめ
●校長より5つの分科会について共有のために報告をしました。
●当日参加者を含め、今大会が195 名の参加があったことのお礼を述べました。



■記念講演「文部科学省特別支援教育課特別支援教育調査官
中村大介先生」
●演題「学習指導要領等の改訂を踏まえた特別支援教育の推進」

保護者の皆様へ
附属特別支援学校長だより

NO. 11　保護者向け
平成３１年　３月５日
発行：附属特別支援学校
校長　須田　正信

三学期の各行事紹介
小・中・高等部のさまざまな取り組み

三学期に入り、子どもたちの活動は様々な行事と学習の取り組みを展開しています。そんな中、いくつかの活動を紹介したいと思います。

■小学部

●六甲山「雪あそび」

二月二十日水曜日に「雪あそび」として六甲山に行ってきました。スクールバスでの移動後、そり滑りなどを先生と一緒に楽しみました。大学学生ボランティアも参加してくれました。

●「お相撲さんとの交流」

二月二十六日火曜日に附属幼稚園に、本物の力士が来てくれたので、附属特別支援学校の小学部一組の友だちも参加してきました。お相撲の力士さんと「にらみあい」、「四股踏み」など頑張っている様子がうかがえます。

■中学部

●「山の辺の道・ハイキング」

二月十五日金曜日には、中学部全体と小学部六年生も交えてハイキングに行ってきました。秋の奈良「山の辺の道」には行き慣れているとはいえ季節を感じる上で子どもたちにはいい経験なのかもしれません。

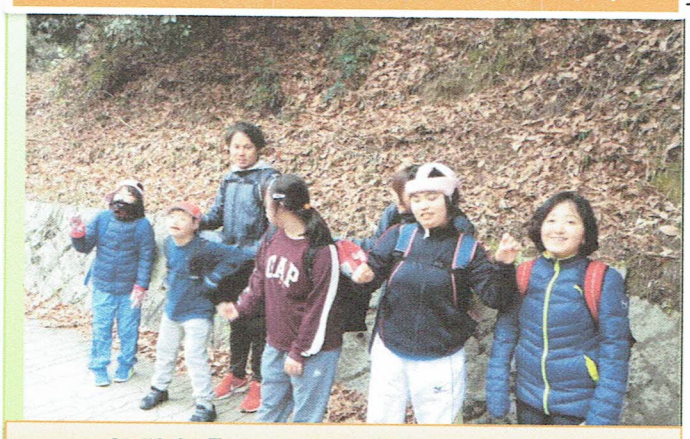
■高等部

●「三年生を送る会」が二月十四日木曜日にありました。今年卒業する６人の似顔絵が正面に掲示され、実行委員の生徒たちが主体的に進行し、和やかに行われました。保護者からわが子に向けてのメッセージに感動でした。

「高等部三年生を送る会」



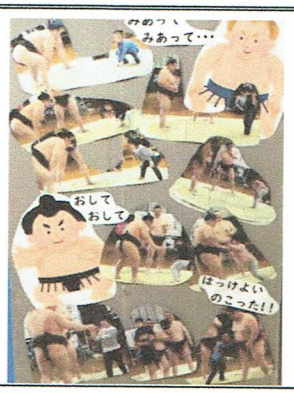
楽しかった学校生活を惜しんでいます



中学部「山の辺の道」ハイキング

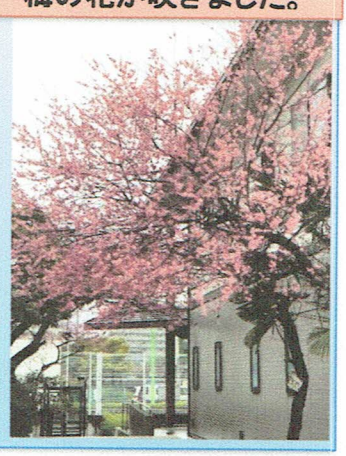


小学部「六甲山の雪あそび」



小学部の「お相撲さんとの思い出」のスナップが掲示板にいっぱい貼られていました。

附属特支の庭にも梅の花が咲きました。



高等部３年生はもうすぐ卒業「３月８日」



3年生を含めた高等部の仲間と淡路島「夏の臨海学舎」での思い出

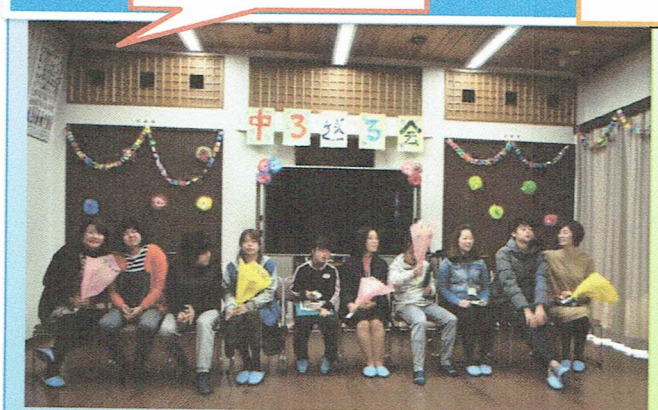
■高等部は三月八日に卒業式を迎えます。残り少なくなった学校生活を惜しむかのように日々、学習活動や卒業に向けての取り組みを行っています。校長は高等部三年生の思い出はたくさんありますが、二泊三日で行った高等部全体の淡路島臨海学舎かなと思い返しています。周りから見ていても先生と生徒が一体となって近い距離間の中でかかわりを深めていたことを感じました。学校生活で培った経験や友だちとの関係を大事にしてこれからも頑張ってほしいと願っています。今後は新たな環境で様々な人との出会いがあることと思います。出会いを大事にしてそしてよき社会人として成長されることを願っています。皆さんの門出を祝いたいと思います。

小学部・中学部の卒業式は「３月15日」
小６と中３の「おくる会」が３月１日にそれぞれありました。



■小学部・中学部で「おくる会」がそれぞれありました。卒業式が三月十五日にあるので、その前に、友だちと先生とお母さんと一緒に思い出づくりをしました。卒業する友だちにプレゼントや花束、お母さんからのメッセージなど心温まる附属特別支援学校ならではのアットホームな会となりました。

中学部は保護者と一緒に前列に並んで思い出を振り返りました



小学部は在校生から「6年生おめでとう」のパネル



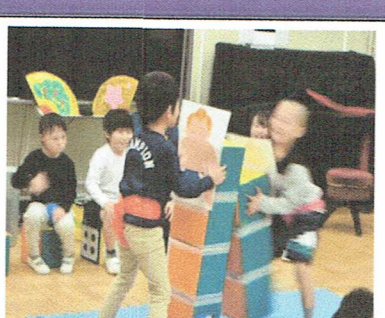
■クラブ活動のメンバーでも「おわかれ会」をしました。中学部・高等部のクラブ部員が月一回程度放課後、サッカーやテニス、バスケットボール等に励み、汗をかきました。共にチームで力を合わせた仲間です。



■高等部のメンバーです。簡単な飲み物とお菓子で労をねぎらいました。



■中学部のメンバーです。先生から頑張ったで賞をいただきました。



■小学部のメンバーです。お相撲ゲームで楽しみました。

保護者の皆様へ
附属特別支援学校長だより

NO. 12　保護者向け
平成31年　3月20日
発行：附属特別支援学校
校長　須田　正信

平成最後の卒業式
小・中・高等部とそれぞれに次への飛躍！

■三月は終業式と年度の修了式を迎えるにあたり保護者の皆様には改めて、本校の教育活動への一年間のご協力に対してお礼を申し上げます。

3月8日には高等部の卒業式がありました。多くの来賓の皆様をお迎えして、6名の卒業生を送り出すことができました。高等部卒業生6名はそれぞれの進路先で今後の自立に向けた訓練を受けて社会参加をしていくことになります。在校生も4月には進級してさらにスキルアップをしていくことだと期待しています。十二年間・六年間を共に過ごした仲間や先生との別れは寂しいですが門出を祝い送り出しました。



高等部卒業式
一人ひとりに卒業証書が渡されました。



在校生からの花束贈呈がありました。

■小・中学部は、十五日に卒業式が行われました。小学部3名、中学部6名がそれぞれ次の学部に進みます。入学時期の写真を見比べると、背も高く体も大きくなり本当に成長しました。卒業は人生の節目に当たります。次のステージに立つ子どもたちに自立に向けてさらなるご支援をお願いしたいと思います。学校・教職員は、それぞれの学部での指導においてしっかり引継ぎをして継続できるように配慮をする所存です。年度末から新学期に向けては新たな体制布陣になるかと思います。どうか保護者の皆様におかれましても今後ともご協力ご支援をお願いします。



■卒業する 6 人にスポットライトが照らされ、それぞれが想い出を語りました。

▽中学部卒業式△

■しっかり卒業証書を受け取りました。緊張感の中にも和やかにそしてアットホームな雰囲気を醸し出していました。







中学部の卒業生と先生

■小学部卒業式　３名が卒業しました。





■小学部は３人の卒業生です。個性派ぞろいの楽しい仲間です。中学部に進学してもさらに頑張ってください。



小学部の卒業生と先生

■三月十六日に附属平野小学校にて「ひらのBOSAIキャラバン」が開催されました。平野地域の多くの人たちが集いました。消防団や自衛隊の人も参加して各ブースでそれぞれの防災に関する取り組みを披露してくれました。本校のブースは「パネルクイズコーナー」として障害のある人の災害時の対応やアイマスク・車いす・イヤーマフ体験をしてもらいました。準備等で早くからPTAの皆さんが関わっていたおかげで無事終えることができました。重ねてお礼申し上げます。



■「防災」「障害者理解」についてパネルで紹介しました。

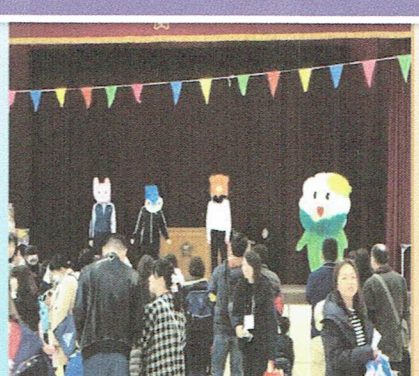




平野五校園「ひらのBOSAIキャラバン」



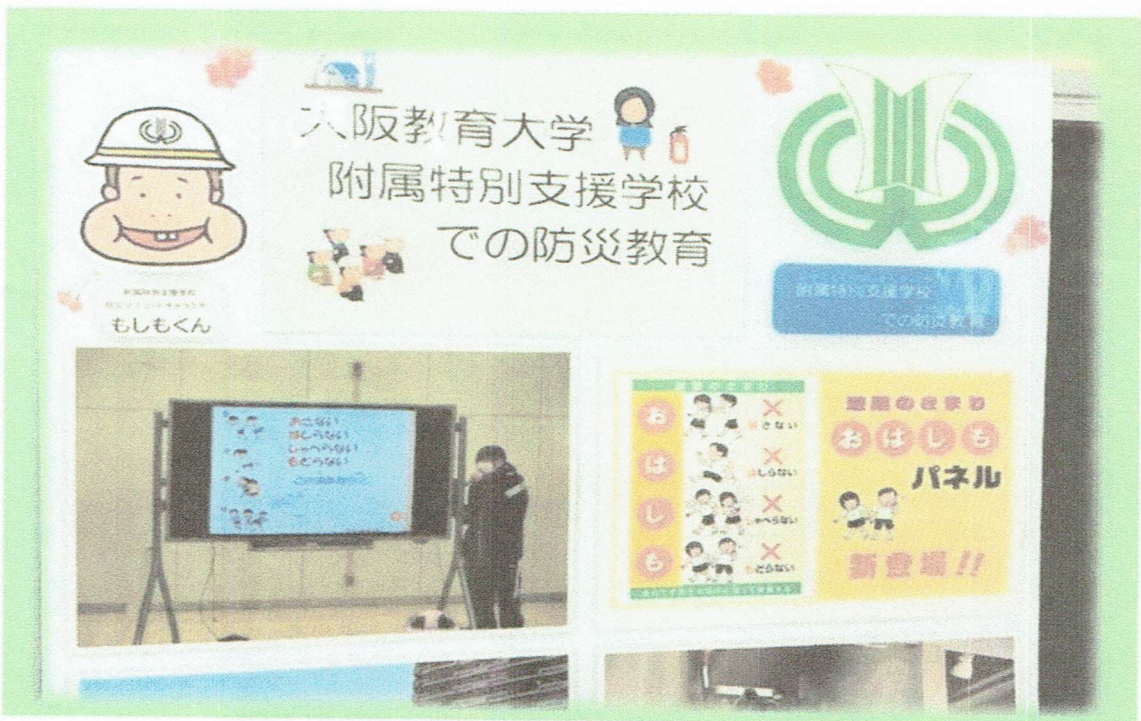
■「ひらのＢＯＳＡＩキャラバン」に参加した附属特別支援学校のメンバーです。お疲れ様でした。



■舞台には平野区の「ひらちゃん」も登壇して場を盛り上げてくれました。



■会場では車いす体験やポイントスタンプ押しなど生徒や卒業生も手伝ってくれました。



■編集・発行：大阪教育大学附属特別支援学校　校長　須田　正信

■発行年月日：2019年(令和元年)6月3日

■保護者向け　「校長だより：NO1～NO12」